

インターバンクの声（2016年8月5日）

イングランド銀行(英中央銀行)は、昨日の金融政策委員会で政策金利の引き下げを決めた。資産購入枠の拡大も決めたが、利下げは2009年3月以来、実に約7年半ぶり。資産購入枠の拡大は2012年7月以来4年ぶりのことだ。インフレ報告も、2017年、2018年それぞれの成長見通しを大幅に下方修正しており、社債購入の決定とともに政策委員が全会一致で決定したのも頷ける。市場が昨晚の決定を見越していたこともあり、ポンドの200ポイントほどの下落は少しやり過ぎにも思えたが、欧州連合(EU)からの離脱を決めた6月24日の国民投票の後に、いったん1.28ドルまで下落しているので、昨日の水準では下値余地がまだ充分あると認識していたのだろう。ポンドの下落でポンド/円も2円超下落した余波で、ドル/円も多少円高に振れたが、ニューヨーク市場では非常に静かな値動きとなった。いよいよ注目の米雇用統計の発表があるが、静かな値動きが続くのかどうかは就業者数の増減次第だが、ディーラー仲間の予想はドル売り派とドル買い派が相拮抗している。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。